

久留米

高専
通信

2007年夏号

[JUNE 20, 2007]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

久留米高専3年目の出発にあたって

久留米工業高等専門学校校長 前田三男



久留米高専に赴任して、あっという間に2年間がたっしてしまいました。その間いろいろなことがありましたが、振り返ってみると、これまでやってきた一番大きな仕事は、要約すれば、学内の管理運営システムと本科の教育システムの見直しだったように思います。

大学から赴任してまず感じたのは、学校運営に関して校長・主事といった「管理職」と、現場で働く教職員との間の意思の疎通が不十分な点でした。最近では法人化して、会社と同じように「校長のリーダーシップ」が求められるようになってきています。その点「大学自治」という思想に支配されてきた大学に比べると、高専は設立時から校長の権限が強いシステムです。しかし、リーダーシップというのは相互の信頼があって初めて成り立ち、機能するものです。校長としては「笛吹けど踊らず」といった状態が最悪だと思います。そこで私は、できる限り情報はオープンにして、構成員が情報を共有できるようにすること、学校がやろうとしている方針は逐一説明して、現場の意見に耳を傾けることを重視しました。

とりわけ、カリキュラムを含めた教育システムに関しては、直接学生と接している教員の意見が重要だと思います。大学から高専に来て第一に感じるのは、入学後3年間の教育の大切さです。高専は大学より早くから専門的な実践教育ができる点に特徴があります。それは確かに優れた点ですが、人間としての広い視野を養うには、

低学年においては最先端知識の教授より、基礎的素養の育成を優先すべきです。また大学では学生を一人前の「大人」として扱うので、その行動は基本的に個人の責任だと考えます。それに対して高専では、学生の人間的に未熟な行動にしばしば遭遇して、それ以前の人間教育の必要性を痛感しました。

2年目の昨年度は、認証評価とかJABEE中間審査といった「外部評価」に明け暮れた年でした。久しぶりで外部評価委員会というものも開きました。外部の第三者に学校の方針や実績を説明して意見を聞くというのは、最近の学校改革の大きな流れです。受けてみて感じたのは、まず学校の基本的な方針を、教職員や学生のみならず外部にも明示し、その目標の達成度を自己点検し、改善するというサイクルがいかによく機能しているかが評価のポイントだという点を再認識したことです。

私自身それはある程度意識的にやっては来たことですが、まだ不十分な点が多いと思います。教職員の方々も、久留米高専という狭いコミュニティではなく、社会的に広い視野に立って久留米高専を見直して欲しいと思います。また、外部に対する広報活動も不十分だったようで、その改善は今年度の課題のひとつです。この「高専ニュース」は、本号から担当を企画主事室に移して「高専通信」として模様替えをはかってもらいましたが、いかがですか？

教務主事 馬越 幹男

学生主事 松井 悟

久留米高専では平成17年度より教育課程表、教務に関する規則、時間割、中間試験あるいは教室の固定化など学校の根幹に関わる大きな変更を行い、現在も進行中です。これは、学生の皆さんの学力、特に基礎学力を充実させること、そのためには先ずは授業が大事だと、何度も繰り返して言ってきました。

基礎学力が重要だと云いまして、身に付いたと云う実感は漠然として分かりにくいものです。しかし、基礎学力の源となるものは、これまで人類が長い時間をかけて積み上げてきたものですから、初学者が簡単に得られるものではなく、粘り強く考え続けることによって深い理解に到達するものです。これを若いときに身に付けますと、皆さんの大きな貯金になることは間違いありません。

高専の卒業生は、産業界から即戦力として高く評価されてきましたが、即戦力と云うと、直ぐに役に立つ力だと解釈され、企業に入って特に訓練しなくても仕事ができると思われています。この理由は、高専では大学に比べて実験、実習、製図のような科目が多く、卒業生がこれらに習熟しているためでしょう。しかし、その背景には、数学や自然科学の基礎学力があることを忘れてはいけません。

高専教育の特徴の一つとして、効率的な技術教育を行っていることが挙げられ、大学の学部水準にあると自負しています。その反面、国語、英語、社会と云った科目が疎かにされがちです。特に低学年におけるこれらの基礎学力を確かなものにするには、豊かな人間性の涵養に不可欠なばかりでなく、創造性、思考力、表現力などのあらゆる源泉になります。

基礎学力を身に付けるには、鍛錬と根気が必要です。この鍛錬と根気の過程も大事な教育の要素で、高専では受験に捉われなくてよいため、5年間を有効に活用すれば、学生の皆さんはきっと大きな力を得て卒業できます。

以上の精神で、今から2年間教務主事を務める所存ですが、主役は学生の皆さん一人一人です。私たち教職員は最大限の支援を行っていきます。

来年度まで学生主事を務めることになりました、皆様方には引き続きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。私共は学生指導に当たる際の基本姿勢として"学生諸君に自立の精神を涵養すること"を目標として参りましたが、今後もこの姿勢は堅持していく方針です。

2年前の本校の状況を省みますと、目指す所は同じ方向にあったのですが、"自由な行動を束縛しない"ことが優先されすぎた結果、15歳から22歳までの幅広い年齢層の若者に対する生活指導には少なからず欠落した部分もあったようで、未成年者の飲酒による中毒事故など深刻な事態も起きていました。そこで、私たちは下級生の育成にはとくに注意を払い指導を強化する必要があると判断し、校内の規律を乱す行為には処分も辞さない方針に転換して対応しました。その結果校内の秩序も幾分かは回復して来たように感じています。しかしながら、盗難事件や未成年者の喫煙などを根絶するには至っていないのが現状ですので、今後も現在の指導方針を堅持しみんなが安心して学校生活を送れるような環境に改善していく所存です。

15歳人口の漸減傾向が続く中、本校も多くの高専や大学等を相手に生き残り競争に打ち勝って行かねばなりません。これを達成するには最新の学術を教授することはもちろんですが、社会に出て信望を集められる人材を育てることこそ肝要であると思います。そのためには全学生が誇りを持ち、胸を張って校門に入って来られるような品格を備えたキャンパスにすることが必要です。また別の側面では、5~7年間の一貫教育という高専のメリットを生かす意味においても課外活動の果たす役割は大きいと考えており、これを支援する為にも本年度はとくに施設面の改善に力を注ぎたいと考えています。伝統ある久留米高専に集う者として、学生諸君と教職員が心をつなげて地域から真に信頼される学校を築いていくという潮流を確かなものにするを旨とし微力を尽くしてまいります。

寮務主事 櫻木 功

本校の学生寮は筑後川と宝満川が合流する地点にある自然環境に優れた男子寮(入寮は任意制)で、筑水寮と呼ばれています。現在、約130名の寮生が日々自立できるように努力しています。しかし、本校の寮は増改築されてからすでに20年以上が経過し、施設も古くなっております。平成17年度は老朽化に伴う風呂用ボイラータンクの更新およびその容量アップ工事、一部の部屋の壁紙張替えなどを行い、また各部屋に貴重品ボックスを設置しました。昨年度は灯油等の高騰により、後期の寮費と暖房費を値上げせざるをえませんでした。一方で暖房時間の短縮、購入新聞数減、業者清掃数減などの寮費を節約する努力も行ってあります。

今年度は、さらに寮費を節約するために、現在の事業所ごみ収集方式を家庭ごみ収集方式に変更できないか検討していくつもりです。今後は、寮施設の安全を一層高めるために耐震補強工事等を行ったり、寮内駐輪場の増設やおよび寮内装改修を実施していきたいと考えております。

企画主事 綾部 隆

専攻科主事 笹栗 信也

企画主事に就任してからは機関別認証評価に明け暮れました。機関別認証評価は個々の大学・高専が教育研究、学校運営、施設設備などを自己点検・評価し、その結果を大学評価・学位授与機構に提出して評価を受ける制度であり、学校教育法で義務づけられています。本校は平成17年度に教育、学校運営の体制を大幅に変更したため、平成17年度前後でのこれらの不連続性をどう説明すればよいか悩みましたが、「改善を要すべき点」としていくつかの課題は残ったものの、無事に「本校は基準を満たしている」という評価を得ることができました。資料データの収集、報告書作成にあたってご尽力いただいた先生方に深く感謝します。

さて、企画主事をこれから2年間務めることになりましたが、今後は広報活動などの業務もこなしていく予定です。具体的には、学生主事室で作成していた高専ニュースを今年度から企画主事室が担当することになりました。従来とは違った特色を少しずつ出せていけたらと考えております。また、総合情報センター長、事務の企画情報係とも協力して本校のホームページをより分かり易いものに改善していくつもりです。

本校の専攻科は、平成5年に設置され、他高専にくらべると少々長い歴史をもっております。専攻科を修了し、所定の試験に合格しますと、学士号が授与され、大学卒業者と同じ扱いとなります。これまでに本校の専攻科を修了した学生は339名で、そのうちの約64%が就職、36%は九州大学等の大学院へ進学し、各界で活躍をしております。

さて、この2年間を振り返りますと、専攻科の入学生が平成17年、18年共に37名で、本校に専攻科が設置されてから、これまでで最も多くの入学生を迎えることができました。また、専攻科の活動として学会発表を奨励しており、ここ数年落ち込んでいた発表数もこの2年間で上昇傾向を示し、活発な活動をとり戻しつつあります。専攻科の充実は、多くの優秀な学生が入学してくれることや、時代にあったカリキュラムを整えることが重要と考えています。これまで少しずつではありますが、他校に先駆け、「創造工学実験」や民間企業等で2ヶ月以上の実習を行う「専攻科インターンシップ」の導入を行って参りました。昨年度はこれまで他大学で取得できる単位を専門科目に限っていましたが、文科系の科目も取得できるようにすると共に、生物応用化学コースに新しい科目を導入しました。今年度は、制御情報コース及び電気電子工学コースに新しい科目を追加するなどのカリキュラムの改善を行いたいと考えています。

今後も、少しずつですが時代に則したカリキュラムとなるよう改善に努めて行くことにしています。

平成19年度
各種担当者
学級担任

- ◆教務主事 馬越
- ◆教務主事補 原田、宮崎、江頭、梶、福田か
- ◆学生主事 松井
- ◆学生主事補 橋村、田中大、原、渡邊、谷、金城
- ◆寮務主事 櫻木
- ◆寮務主事補 江崎、松田、矢野、山本稔
- ◆専攻科主事 笹栗
- ◆専攻科主事補 中武、池田、丸山、泉本
- ◆企画主事 綾部
- ◆企画主事補 藤田、平川、中嶋、山崎
- ◆学科長 松永(機)、長田(電)、福田幸(制)、津田(生)、奥山(材)
平元(一文)、宮本(一理)
- ◆図書館長 東島
- ◆図書館長補 中坊
- ◆図書主幹 中坊
- ◆総合情報センター長 江頭
- ◆産学民連携推進センター長 伊藤
- ◆産学民連携推進センター長補 富岡、越地
- ◆学生相談室長 中畑
- ◆放射線取扱主任者 奥山
- ◆X線作業主任者 奥山
- ◆就職主任 永野、高松、小田、伊藤、平野
- ◆留学生指導教員 原田、橋村、宮崎、大崎、中野
- ◆学級担任教員

| 学科 | 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---------|----|-----|----|----|----|-----|
| 機械工学科 | | 中坊 | 岡本 | 原田 | 橋村 | 平簗 |
| 電気電子工学科 | | 金城 | 山崎 | 大崎 | 中島 | 宮崎 |
| 制御情報工学科 | | 山本稔 | 熊丸 | 中野 | 黒木 | 川口 |
| 生物応用化学科 | | 富岡 | 米永 | 大岡 | 石井 | 森 |
| 材料工学科 | | 江島 | 大串 | 濱上 | 平野 | 山本郁 |

| 学科 | 学年 | 1 | 2 |
|-----------|----|----|----|
| 機械・電気工学専攻 | | 中武 | 丸山 |
| 物質工学専攻 | | 笹栗 | 泉本 |



私はモンゴルから来た留学生のツェツェグ・ウルジー バトソリグです。ゾーギと呼ばれています。趣味はチェスをする 것과バスケットボールをすることです。日本の技術と文化を習いたかったので日本にきました。東京日本語教育センターで勉強していた時、久留米高専はどんな学校かと心配していましたが、久留米に来てから先生方が親切にいろいろなことを手伝ってくださいました。

また、久留米高専は様々の部活動があって、とても良い雰囲気の高専です。私は久留米高専プロコン部に入っているいろいろなプログラムを作って体験してみたいと思います。また、できればプログラムコンテストに出たいと思います。日本語での勉強が大変ですが、できるだけ頑張ってお勉強します。高専を卒業したら大学に進みたいと希望しています。

制御情報工学科3年
ツェツェグ・ウルジー バトソリグ (ゾーギ)



私はラオスから来た留学生のタオピアルアン ダナンです。特に得意なことはありませんが、スポーツならサッカーやバドミントンを楽しみます。音楽が大好きで、ギターは少し弾けます。高校生の時、日本の事が社会の授業に出てきました。その影響で日本の文化や技術などが好きになって、日本に留学したいと思いました。

2006年4月3日に日本へ来て、一年間、東京日本語教育センターで日本語を勉強していました。2007年4月から久留米高専の電気電子工学科に在学することになりました。久留米に住んでいるのはまだ短い時間なので、久留米高専がどのような学校かまだはっきり分かりませんが、とても雰囲気が良い印象を持っています。キャンパスはあまり大きくありませんが静かで、きれいな所にある学校で、風景が良かったです。

久留米高専では授業を受けるだけでなく、いろいろなクラブ活動に入って、何か日本のスポーツ、例えば空手や合気道あるいは剣道など、その中の一つができるように習いたいと思います。留学は大変ですが、久留米高専ですべて頑張ってお勉強します。

電気電子工学科3年
タオピアルアン ダナン



名前はムザッキルです。マレーシアからの留学生です。日本に来る前に高校を出てから2年間、高専へ行くための特別な学校で日本語を勉強しました。スポーツが好きで、バスケットボールが大好きです。高校の時バスケットとクリケットを少しやっていました。小さい時からエンジニアになりたかったため、日本へ留学することにしました。

久留米高専を選んだのは、先輩に紹介されたからです。久留米高専は、いい学校だと思います。先生方も、学生も優しく、ここの生活も楽しいです。

この学校に在籍しているうちに、優れたエンジニアになるための勉強だけでなく、日本の習慣、文化なども習ったり、経験したいと思います。そして、友達もたくさん作って、ここの生活を楽みたいです。これから色々お世話になりますが、よろしくお願いします。

機械工学科3年
アハマド ムザッキル ビン モクタール

平成19年度九州沖縄地区高専体育大会日程・会場

平成19年3月5日現在

九州沖縄地区高専大会の日程と会場が決まりましたのでお知らせ
 します。今年度は都城高専、鹿児島高専、八代高専が幹事校です。
 全国大会出場に向けて頑張ろう！

| 担当校 | 種目 | 会場 | 7月 13日 (金) | 14日 (土) | 20日 (金) | 21日 (土) | 22日 (日) |
|-------------|---------------------|---|------------------|------------|------------|------------|------------|
| 都城工業高等専門学校 | 陸上競技 | 宮崎市生目の杜運動公園陸上競技場 http://miyazaki.daa.jp/ikime/ | | | | ○ | ○ |
| | ソフトテニス | 都城工業高等専門学校テニスコート（雨天時 都城市高崎総合体育館） http://www.cc.miyakonojo-nct.ac.jp/ | | | | ○ | ○ |
| | バドミントン | 児湯郡高鍋町総合体育館 http://ambase.info/gym2/miyazaki/takanabe.html | | | | ○ | ○ |
| | 水泳 | 宮崎県総合運動公園水泳場 http://sun.pref.miyazaki.jp/sports/shisetu/index2.html | | | | ○ | |
| | ハンドボール | 都城市高城運動公園総合体育館 http://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/mkj/kanko/sports/sportsindex.htm | | | | ○ | ○ |
| 鹿児島工業高等専門学校 | 硬式野球 | 霧島市国分球場 http://www3.pref.kagoshima.jp/suisui/12-kokubu/029/ 始良総合運動公園始良球場 http://www3.pref.kagoshima.jp/suisui/53-aira/026/ | | | ○ | ○ | ○ |
| | バスケットボール (男子・女子) | サンアリーナせんだい http://machi.satsumasendai.jp/sisetu-kyutaku005.html | | | | ○ | ○ |
| | 卓球 | 始良総合運動公園体育館 http://www3.pref.kagoshima.jp/suisui/53-aira/026/ | | | | ○ | ○ |
| | 剣道 | 鹿児島工業高等専門学校第二体育館 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/ | | | | | ○ |
| 八代工業高等専門学校 | サッカー | 熊本県営八代運動公園 陸上競技場・多目的広場 http://www.kspa.or.jp/info/yatusiro/yatusiro.html | | | ○ | ○ | ○ |
| | 柔道 | 八代市立武道館 http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/ar/article_view.phtml?id=12412 | | | | ○ | ○ |
| | バレーボール (男子・女子) | (男子)八代市鏡体育館 http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/ar/article_view.phtml?id=12704 (女子)八代市千丁体育館 http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/ar/article_view.phtml?id=12705 | | | | ○ | ○ |
| | テニス | 熊本県民総合運動公園パークドーム http://www.kspa.or.jp/info/p_dome/p_dome.html | ○ | ○ | | | |

| 担当校 | 種目 | 会場 | 11月 17日 (土) | 18日 (日) | 19日 (月) | 20日 (火) |
|------|------------|---|-------------------|------------|------------|------------|
| 都城高専 | ラグビーフットボール | 都城市高城総合運動公園多目的広場 http://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/mkj/kanko/sports/sportsindex.htm | ○ | ○ | | ○ |

新任者の紹介



明官 秀隆 (みょうかん ひでたか)
 職名 一般科目文科系 教授
 (平成19年4月1日付)
 前職 旭川工業高等専門学校
 一般人文科
 抱負 日本一寒くて最北端の旭川高専から憧れの温暖の地、九州は久留米に来てとっても嬉しく思っています。同じ高専とはいえ、いろんな違いに戸惑うことも多いですが、早く気候や土地柄に慣れて教育に研究に頑張っていきたいと考えています。不慣れで、いろいろご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、よろしくお願いいたします。

趣味 山歩き(散歩程度)と温泉巡り、庭作業やバイクツーリングなど



石丸 良平 (いしまる りょうへい)
 職名 機械工学科 助教
 (平成19年4月1日付)
 前職 九州大学大学院 工学研究院
 知能機械システム部門助手
 抱負 機械製図、CAD 演習、機械工学実験などを担当します。よろしくお願いいたします。

趣味 ソフトボール、天気予報



周 致霊 (しゅう ちいてい)
 職名 材料工学科 助教
 (平成19年4月1日付)
 前職 九州大学工学研究院 機械科学部門
 21世紀COE 研究員
 抱負 分からないことばかりでご迷惑をお掛けすると思いますが、教育・研究と精一杯楽しんで頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

趣味 釣り



岡本 和也 (おかもと かずなり)
 職名 一般科目 助教
 (平成19年4月1日付)
 前職 北海道大学大学院 文学研究科博士課程
 抱負 初めてのことばかりで何かにご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いいたします。

趣味 読書、アメリカンフットボール、スキー



伊藤 重則 (いとう しげのり)
 職名 総務課 総務課長
 (平成19年4月1日付)
 前職 財務省 福岡財務支局 管財部審理課
 上席国有財産管理官
 抱負 これまで、主に国有財産の管理処分事務に携わってきましたことから、学校事務にはまったく無縁でございました。久留米高専の教職員の皆様には、多々ご迷惑をおかけすることと思いますが、皆様のあたたかいご指導のもと精進してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

趣味 若かりし頃は、バレーボール、ソフトボール、サッカーなど球技に参戦していましたが、今ではすっかり観戦おじさんです。



盆子原 勇 (いちごはら いさむ)
 職名 総務課 課長補佐(総務担当)
 (平成19年4月1日付)
 前職 九州大学 企画部
 統合移転推進室専門職員
 抱負 現状維持でなく、何事にも前向きな姿勢でのぞみたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

趣味 スポーツ(野球など)、釣り、山登り



佐本 美恵子 (さもと みえこ)
 職名 総務課 課長補佐(財務担当)
 (平成19年4月1日付)
 前職 九州大学 貝塚地区事務部
 抱負 豊かな自然環境に恵まれた久留米高専に勤務できることを嬉しく思っています。業務では、慣れなくてご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

趣味 ドライブ、温泉めぐり、太極拳



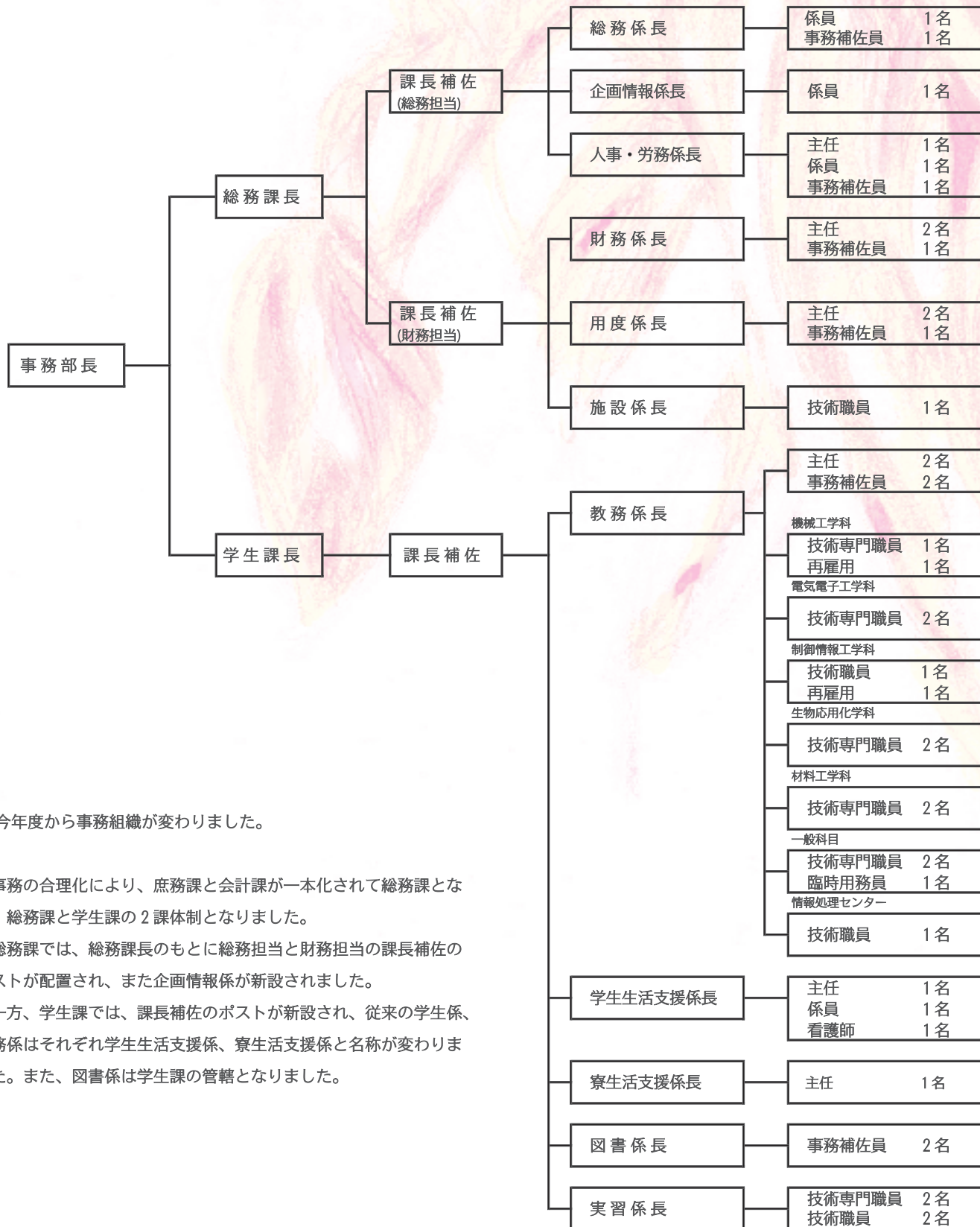
木下 勝浩 (きのした かつひろ)
 職名 総務課 企画情報係長
 (平成19年4月1日付)
 前職 佐賀大学 総務部 総務課 情報企画係

抱負 まだ業務に不慣れで、ご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、よろしくお願いいたします。

趣味 サッカー(校内で興味がある方がございましたらご連絡ください。)

事務組織の変更

平成19年4月1日現在



今年度から事務組織が変わりました。

事務の合理化により、庶務課と会計課が一本化されて総務課となり、総務課と学生課の2課体制となりました。

総務課では、総務課長のもとに総務担当と財務担当の課長補佐のポストが配置され、また企画情報係が新設されました。

一方、学生課では、課長補佐のポストが新設され、従来の学生係、寮務係はそれぞれ学生生活支援係、寮生活支援係と名称が変わりました。また、図書係は学生課の管轄となりました。

Haruki's Wonderland ～「海辺のカフカ」について～

久留米工業高等専門学校校長 前田三男

最近「コンピューター少年」や「漫画少年」は多いようですが、「文学少年（あるいは青年）」というのは、カビの生えた骨董品のような存在になってしまったようです。高専生諸君の年代の頃、私は一応その手の少年の一人で、ある時期までは手当たり次第に小説を読んで、自分でもそれらしきものをこっそり書いていた時代がありました。歳をとるにつれて小説の読書量は減り、新作が出たら必ず買って読むといったひいきの小説家も、谷崎潤一郎、三島由紀夫、安部公房といった人たちが世を去るとともになくなってしまいました。ところが、未だに新作が出たら買ってきて読み続けている唯一の作家が村上春樹なのです。村上春樹は現在若い人にたいへん支持されている人のようで、読んでいる人も多いでしょう。今回は小説に関して若い人と何か接点が見いだせればと思い、私が感じている村上春樹像について少し書いてみます。

村上春樹の魅力について

村上春樹の魅力のひとつはその独特の文体にあります。古い「文学少年」の目で見ると、彼の文体は、上にあげた谷崎潤一郎や三島由紀夫、さらには志賀直哉といった最も正統的な日本語散文の文体から完全にはずれています。といて崩れた文体ではなく、実にイメージがくっきりとして、平易で明快で、音楽的なリズムに満ちた軽やかな文章です。多彩な比喻を縦横に駆使し、クールで都会的な会話も魅力的です。村上春樹はその処女作「風の歌を聴け」を書くに当たって、最初英語で書き、それを日本語に翻訳したと語っています。明治時代以降の日本の文学者はすべてと言っていいほど、多かれ少なかれヨーロッパ文学の影響を受けていますが、村上文学はその素地が近代アメリカ文学にある点でも変わり種です。

その結果、村上春樹は日本の伝統的な「文壇」での評価は低く、外国の評価が高いということになります。確かに彼の小説は外国人にもわかりやすい文体と内容を持っていますが、多くの外国人が村上春樹に感じる魅力は、むしろ彼の文学の「曖昧模糊とした日本的な謎」にあるのは注意すべきでしょう。村上春樹は優れたストーリーテラーです。初期の3部作はあまりストーリー感のない小説ですが、その後の長編小説では、ストーリーは千変万化、ハードボイルド作家レイモンド・チャンドラーの手法を採り入れて、生々しく、手に汗握る展開を示します。にもかかわらず、小説全体の印象は霧に包まれた日本画のように謎めいています。日本人から見ると彼の小説は非常にバタ臭いものですが、外国人はその神秘的な謎に日本的なものを感じ取るようです。

村上春樹が書く文章のもう一つの特徴は、音楽とか、ファッションとか、映画とか、料理とか、酒とか、車とか、猫とか、若い人に興味がありそうな趣味性の濃い話題が小説のいたるところにちりば

められ、独特の「ハルキ調」といったムードを作っていることです。とりわけ音楽が重要で、彼の小説に出てくる音楽だけを採り上げた解説書すら出ているくらいです。まるで映画のように、あらゆるシーンにそれに応じた音楽が鳴っています。彼がカバーするジャンルは非常に広く、クラシック、ジャズ、ロック、それにもっと新しいポピュラー音楽まで豊富な知識で、その場に合った音楽が、極めて具体的に演奏者の名前入りで登場します。

私はクラシックかジャズしか分からないので、その範囲で彼の「選曲」の仕方を眺めると、その選択には彼独特のかなり凝った趣味が反映しています。しかし同時に、意外に万人向けのブランド志向も感じられます。昔、田中康夫の「なんとなくクリスタル」という小説が話題になったことがあります。その流れの「カタログ小説」的な傾向です。かなり難解な純文学作家の彼が、ポップカルチャーの担い手として若い人に絶大で大衆的な人気を持つ秘密は、このあたりにあるのかもしれませんが、だから、テーマパーク的ワンダーランドに反発する人には、向かない小説家です。

15才の少年の悩みと冒険

さて、数ある長編小説の中から、「海辺のカフカ」を採り上げたのは、村上春樹がこれまで扱ってきた主題が総合的に見られ、全体の完成度も高く、しかも15才の少年が主人公なので学生諸君にも親近感があるだろうと思ったからです。2002年の発売で、国内では「ノルウェイの森」に次ぐベストセラーでした。日本人の書いた小説の中ではこれまでに外国で一番売れた本と言ってもいいでしょう。

この小説のストーリーは、「父を殺し、母と交わった」ギリシャの「オイデプス王」の悲劇が下書きになっています。東京に住むカフカと名乗る少年には、有名な彫刻家の父親がいて、その父親の圧迫から逃れるために、家出をして四国に向かい、高松にある静かな私立図書館に「隠れ家」を見いだします。少年はもう一つ、幼い頃彼を捨てて家を出て行った母親にトラウマを持っています。その図書館の魅力的な館長である佐伯さんというのが、どうやら彼の母親らしいということになっています。佐伯さんは昔、幼馴染みで相思相愛の男性を大学紛争の混乱で失い、失意のまま放浪して故郷の高松に舞い戻った女性です。

他の小説でも同様の手法を使っていますが、彼はここで二つの関係なさそうなストーリーを並列的に展開し、それが最後で混じり合うという構成を採ります。もう一つは、戦争での疎開中の事故で、少年時に過去の記憶をすべて失ったナカタさんという奇妙な老人の話です。気のいいトラックの運転手星野青年と高松まで向かうユーモラスな二人旅は、ハリウッドの上質なロードムービーを見るようで、なかなか秀逸です。ナカタさんを介した間接的な「父殺し」の

場面は、まさにカフカ的な幻想に満ち、奇怪なアクション映画を見るようです。佐伯さんに思慕した少年が「母と交わる」場面は、夢と現実が入れ混じった曖昧さで描かれています。現実世界と、その向こう側にある「もう一つの世界」とを行き来する話は、彼の小説ではおなじみのものですが、ここでは「源氏物語」や「雨月物語」における怨霊の思想が引用されています。これは外国人読者に対するサービスなのかもしれません。

「喪失」と「逃避」からの脱出

村上春樹は1949年の生まれで、大学時代に学園紛争に遭遇したいわゆる「団塊世代」を代表する作家です。早稲田大学を7年かけて一応卒業していますが、在学中に結婚し、ジャズ喫茶を経営しながら、ものになるかどうか分からない小説をぼつぼつ書くという、社会からドロップアウトした学生の典型です。その頃書いた「風の歌を聴け」には、来る日も来る日も薄暗いバーのカウンターで、無為にひたすらビールを飲み続ける「鼠」と呼ばれる若者が描かれています。これはおそらく大学紛争時代の彼自身の姿でしょう。

村上春樹のすべての小説に共通したテーマは、自分の一番大切な物があるとき不意に失ってしまった人の「喪失感」と、それによる人生の挫折です。「海辺のカフカ」の中では、最愛の恋人が大学紛争時の暴力で意味もなく殺されてしまった佐伯さんがその典型です。彼女はその「喪失」に絶えられず、過去にのみ生きる女になってしまいます。逆にナカタさんは事故で過去を失ってしまった人間です。村上春樹の小説の中では様々な形の「喪失」が語られますが、不意に襲いかかってくる「喪失」と、それに続く深い孤独感を描くときの彼の筆致は甘美なまでに冴えています。失恋した時に読むと、相当地身につまされるでしょう。

村上春樹のもう一つのキーワードは社会からの「逃避」です。この小説ではカフカ少年の父親からの逃避がその典型です。資本主義の歯車からの逃避であったり、面倒な人間関係からの逃避であったり、社会的な規制からの逃避であったり、「逃避」は様々なバリエーションで現れますが、彼の小説の登場人物の大部分は孤独で、自分の居場所を探して、ひたすら逃げまくっているような印象を持ちます。これは大学時代に社会からドロップアウトし、小説家としてはいわゆる「文壇」から孤立した存在であり、名声が高まると日本から離れてヨーロッパやアメリカで執筆するという彼自身のライフスタイルの反映とも言えます。

村上春樹の小説が若い人に人気があるのは、「喪失」も「逃避」も多くの若者が思春期に遭遇する問題だからだと思います。そういう意味で、村上春樹のすべての作品は「青春小説」です。しかしながら、彼も少しずつ変わりつつあります。都合7年ほどの海外生活

を終えた直後、1995年に行われた河合隼雄との対談で、彼は次のような意味のことを言っています。「自分は、若い頃から常に個人でありたいと考えて社会の集団や規制からデタッチし、逃げまくってきた感じがする。ところが、アメリカは元々個人が個人として生きていかねばならない社会なので、自分が追い求めて来たデタッチメントの意味が失われてしまった。そこで今では逆に社会へのコミットメントについて真剣に考えるようになった」

「海辺のカフカ」は、現実から逃げまくってきた少年カフカが、さまざまな事件を経た後、母親へのトラウマを解消して、東京に戻り社会復帰することを決心する場面で終わります。その間の経過は複雑なので、ここで述べるスペースはありません。興味を持たれましたら、ぜひ原作を読んでみてください。

中学生の皆さんに久留米高専にある5つの専門学科、すなわち機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科での授業を体験学習してもらうために毎年体験セミナーを開催しています。1日で各専門学科の模擬授業（講義+実験）を体験学習することができ、また各専門学科の特徴を知ることができるので好評です。参加費用は無料です。家族、親戚、知り合いの中学生や中学校の後輩にぜひ勧めて下さい。

開催日時は8月21日(火)、22日(水)、いずれも同じ内容で授業が行なわれますので、希望する日を本校から中学校に送付された申込書に記入し、郵送、FAX(0942-35-9319)または本校学生課に持参してお申し込み下さい。受付開始は6月25日(月)からです。各日とも200名の定員になり次第、締切らせて頂きます。

お申し込み、お問合せ先

〒830-8555 久留米市小森野1-1-1 久留米高専 学生課教務係

TEL : 0942-35-9316, FAX : 0942-35-9319

ホームページ : <http://www.kurume-nct.ac.jp/>

Eメール : AA-staff.SAD@ON.kurume-nct.ac.jp



【編集後記】

昨年度までは学生主事室が高専ニュースを作成してきましたが、今年度から企画主事室が作成することになりました。タイトルも「高専ニュース」から「高専通信」へと変更され、デザインも一新されました。新しい「高専通信」はいかがでしたか？

今後は学生の皆さんにも参加してもらい、編集やデザインに皆さんのアイデアを取り入れていくことも検討しております。その際には奮って参加してもらえればと思います。

Illustration by Masataka Minoda , 4C



本号掲載記事の無断転載を禁止します